

令和5年度国庫補助事業 松原市内遺跡

個人住宅建築工事等に伴う試掘・確認調査、岡遺跡E7-3-54発掘調査、
丹南藩初代藩主高木正次墓所調査報告書

令和6年(2024)3月

松原市教育委員会

例 言

1. 本書は、松原市教育委員会が令和5年度に国庫補助事業として実施した市内遺跡発掘調査等事業の報告書である。
2. 事業は令和5年(2023)4月1日に着手し、令和6年(2024)3月31日に終了した。ただし、本書には、整理作業等の都合から、令和5年1月4日～3月31日に実施した試掘調査ならびに岡遺跡E7-3-54発掘調査、令和5年4月1日～令和5年12月28日に実施した試掘・確認調査ならびに丹南藩初代藩主高木正次墓所の調査結果を収録している。
3. 現地調査、整理作業ならびに本書の執筆・編集は榎木規秀が担当した。
4. 本書で用いた平面座標値は、全て世界測地系(2011成果)による平面直角座標系第VI系の数値で、m単位で表記した。また、各図面の方位は座標北または真北を使用した。なお、水準は東京湾平均海面高(T.P.)を基準とした(例:H=10.00m)。
5. 発掘した遺構は、検出順にアラビア数字で通し番号を付し、その後ろに遺構の種類を文字で付して、遺構台帳を作成した(例:S001土坑)。なお、本書では、紙幅の都合上「S」記号、2・3桁目の「0」を省略して掲載した(例:1土坑)。
6. 地層の土色は、試掘・確認調査は担当者を目視により、本発掘調査は小山正忠・竹原秀雄編『新 標準土色帖 2016年版』(農林省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修)を用いて目視により比定した。
7. 調査地位置図は、松原市が発行した松原市都市計画基本図(令和1年修正)をもとに作成した。
8. 各図面は、適宜縮尺を変えており、図ごとにスケールバーを掲載し、キャプションに縮尺を表示した。
9. 遺構図・出土遺物の整理作業は、安西工業株式会社、東海アナース株式会社に委託した。
10. 丹南藩初代藩主高木正次墓所の測量は、株式会社アクセスに委託した。
11. 遺構写真の撮影は榎木が行った。
12. 本書の作成にあたり、下記の方々、機関にご協力を得た。記して謝意を表したい。(50音順・敬称略)
飯野尚子、木本誠二、狭川真一、佐藤亜聖、佐藤竜馬、塩野則行、高木翔太、中井均
香川県立ミュージアム、高知県立高知城博物館、高野町教育委員会、公益財団法人土佐山内記念財団、来迎寺

目 次

1. 市内の開発事業と発掘調査	1
2. 試掘・確認調査結果	1
3. 岡遺跡E7-3-54本発掘調査結果	9
4. 丹南藩初代藩主高木正次墓所の調査	10

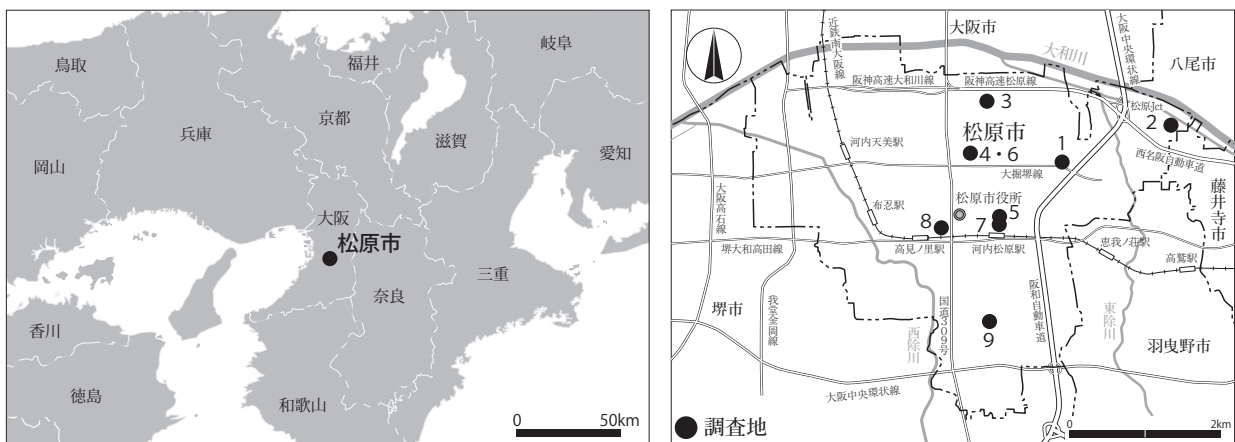


図1 発掘調査位置図

1. 市内の開発事業と発掘調査

令和4年度(2022)1月～3月ならびに令和5年度(2023)4月～12月までに受け付けた文化財保護法第93条第1項に基づく届出、第94条第1項に基づく通知の件数は、前者が98件、後者が330件である(表1・2)。昨

表1 文化財保護法第93・94条に基づく届出・通知取扱い別集計(令和5年1月4日～3月31日)

種別	発掘調査	工事立会	慎重工事
第93条第1項	4	7	87
第94条第1項	0	0	0
合計	4	7	87

年度と比較すると、横ばいの状況である。

個人住宅建築工事等に伴う調査については、令和4年度1月～3月に、試掘調査1件、本発掘調査1件を実施した。また、令和5年度4月～12月に、確認調査6件、試掘・確認調査1件を実施した(表3)。調査件数についても、昨年度と比較すると、横ばいの状況である。

表2 文化財保護法第93・94条に基づく届出・通知取扱い別集計(令和5年4月1日～12月28日)

種別	発掘調査	工事立会	慎重工事
第93条第1項	25	34	263
第94条第1項	0	1	7
合計	25	35	270

表3 令和4年度・令和5年度調査一覧(令和5年1月4日～令和5年12月28日)

位置図番号	遺跡名・調査番号	調査種別	調査場所	調査面積(m ²)	調査期間	調査結果	工事目的
1	範囲外 F4-2-4	試掘調査	松原市別所3丁目64-1、66-1、66-2、69-1、70-1、71、72-1	107.14	2023.03.07～ 2023.03.09	遺構・遺物なし	公共施設整備
2	若林遺跡・範囲外 H3-1-8	試掘・確認調査	松原市若林1丁目104、105、106-2、107-2、109-2、112-3、113-4、113-5、113-6、113-7、若林2丁目57-1	72.25	2023.06.13～ 2023.06.19	柱穴・溝・土坑 弥生土器・土師器	市道整備・ 公共施設整備
3	三宅遺跡 E2-3-36	確認調査	松原市三宅中4丁目1329-13	2.30	2023.08.07	遺構・遺物なし (慎重工事)	個人住宅
4	三宅遺跡 E3-3-40	確認調査	松原市三宅中2丁目101-9	1.71	2023.09.11	遺構・遺物なし (慎重工事)	個人住宅
5	阿保遺跡 E5-2-63	確認調査	松原市阿保4丁目340-13、340-14の一部	0.90	2023.09.25	遺構・遺物なし (慎重工事)	個人住宅
6	三宅遺跡 E3-3-41	確認調査	松原市三宅中2丁目101-6	2.00	2023.10.06	遺構・遺物なし (慎重工事)	個人住宅
7	上田町遺跡 E5-4-99	確認調査	松原市上田2丁目406-8	1.62	2023.12.11	遺構・遺物なし (慎重工事)	個人住宅
8	高見の里遺跡 D5-4-73	確認調査	松原市高見の里1丁目803-5	1.80	2023.12.11	遺構・遺物なし (慎重工事)	個人住宅
9	岡遺跡 E7-3-54	本発掘調査	松原市岡2丁目618-11	11.21	2023.01.27～ 2023.01.31	柱穴・土坑 土師器・須恵器	個人住宅

2. 試掘・確認調査結果

(1) 範囲外試掘調査(F4-2-4) 位置図番号: 1

調査地は、中位段丘上に位置し、調査着手前は水田であった。対象地に12か所の調査区を設定し、GL-0.3～1.25mまで掘削した。多くの調査区で安定した第4層を確認し、本層上面で精査したが、遺構・遺物は確認されなかった。本層の標高は約18.9～19.2mである。

一部の調査区で下層確認を行ったところ、砂層を確

認したが、地山は検出されなかった。

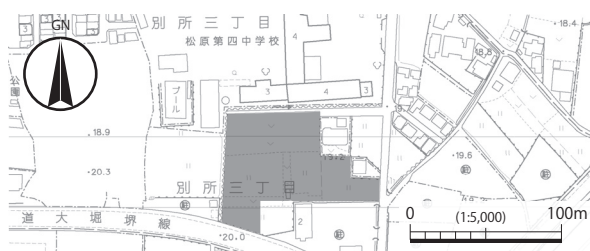


図2 調査地位置図 1:5,000



図3 調査区配置図・土層柱状図 1:800・40



図4 Tr.2全景 西から



図5 Tr.2南壁 北から



図6 Tr. 4南壁 北から



図7 Tr. 8全景 東から



図8 Tr. 8南壁 北から



図9 Tr. 12南壁 北から

(2) 若林遺跡・範囲外(H3-1-8) 位置図番号: 2

調査地は、氾濫原に所在する。調査区は西側と東側に分かれる。東側調査区は若林遺跡の南東部、西側調査区は同遺跡西側の範囲外にあたる。

平成11年度(1999)に、松原市教育委員会が本発掘調査(H3-1-8)を実施し、縄文土器深鉢が出土したほか、弥生時代中期・後期の土器一括廃棄土坑や古墳時代中期と平安時代末期の掘立柱建物・井戸・土坑などが確認されている(報告書未刊行)。

西側は、Tr. 1～5の調査区を設定し、GL -1.2～1.6m掘削した。土層については、盛土、耕土、床土以下の堆積は、粗砂～微細砂や粘土が中心であり、河川氾濫による砂の流入や湿地帯であった状況を示していた。全ての調査区で地山、遺構・遺物は確認されなかった。

東側は、Tr. 6～8の調査区を設定し、GL -0.4～0.7m掘削した。土層は、耕土、近代以降の改良土、部分的に旧耕土があり、遺構面に達する。部分的に下層確認を行ったが、遺構は確認できなかったため、遺構面は1面と考えられる。なお、Tr. 6・7の東端約5mは、攪乱により遺構面が損壊を受け、遺構は確認できなかった。

Tr. 6では、GL -0.25～0.3mで、土坑1基、柱穴1基を検出した。遺物は、弥生土器、土師器の細片を検出中に確認し、土坑から庄内式期に帰属するとみられる土師器甕が出土した。

Tr. 7では、GL -0.25～0.3mで、溝1条、柱穴5基を検出した。柱穴から土師器の細片が出土した。

Tr. 8では、GL -0.25mで、土坑2基を検出した。土坑から庄内式期に帰属する土師器甕・壺・高杯が出土した。

今回の試掘・確認調査により、弥生時代後期～古墳時代初頭における遺構の広がりを確認できた。

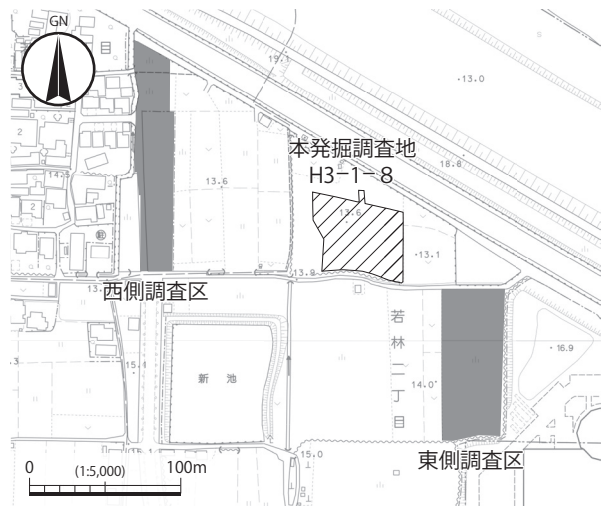


図10 調査地位置図 1:5,000

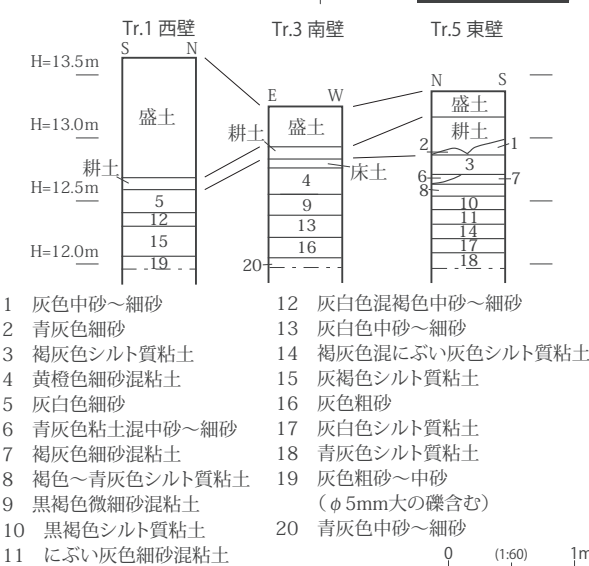
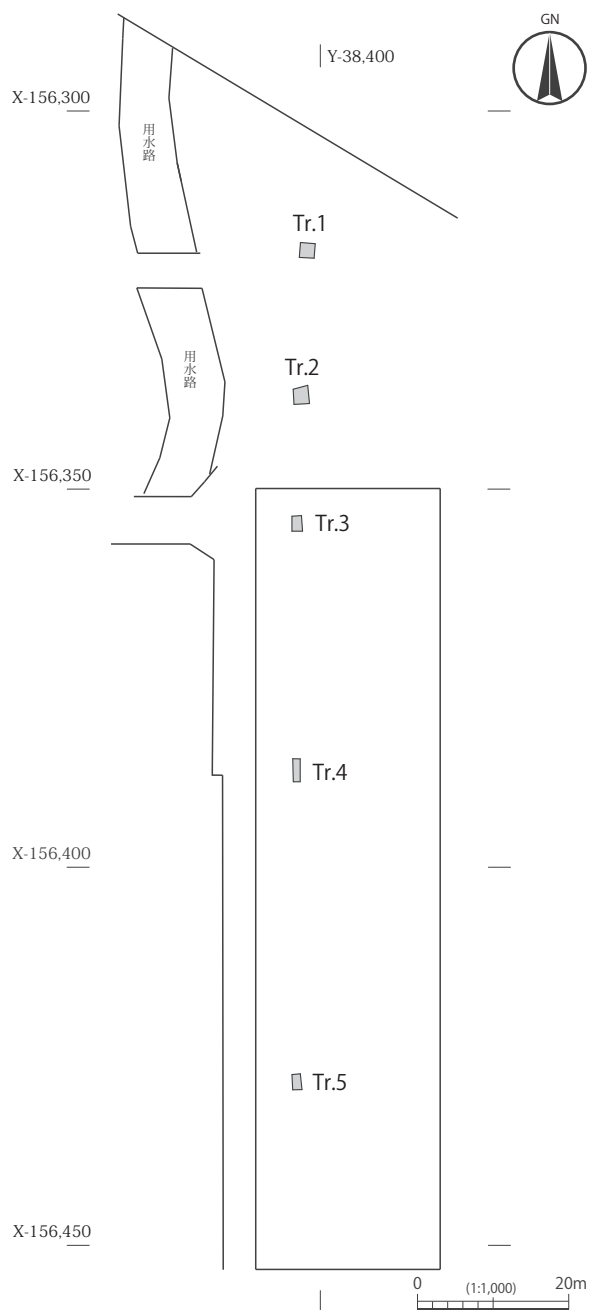


図11 西側調査区配置図・土層柱状図 1:1,000・60

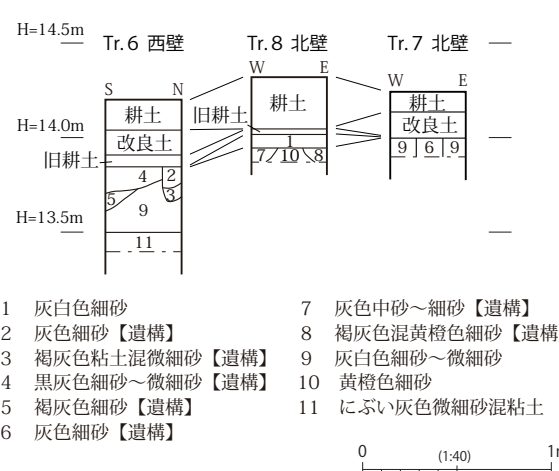
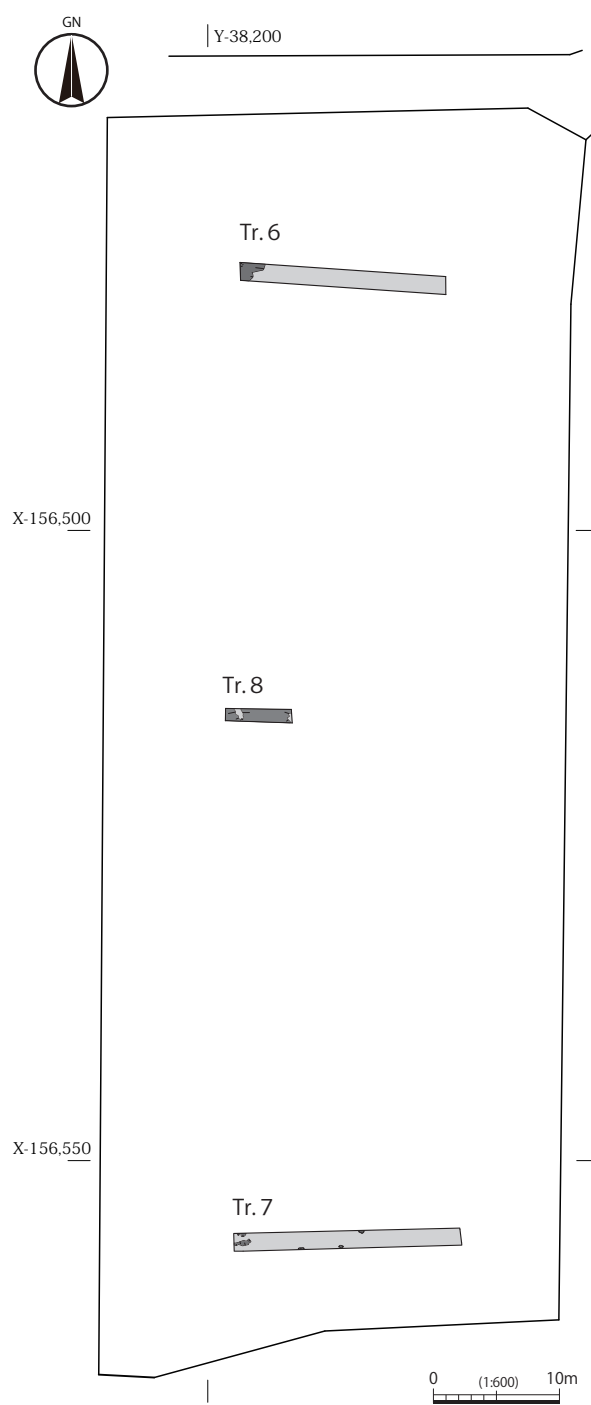


図12 東側調査区配置図・土層柱状図 1:600・40



図13 Tr.1西壁 東から



図17 Tr.7西壁 東から



図14 Tr.4東壁 西から



図18 Tr.8全景 東から



図15 Tr.5東壁 西から



図16 Tr.6西壁 東から



図19 Tr.8北壁 南から

(3) 三宅遺跡 (E2-3-36) 位置図番号: 3

調査地は中位段丘上に所在し、三宅遺跡の北部に位置する。対象地に1カ所の調査区を設定し、GL-0.8~0.9mまで掘削した。

標高約16.3mで地山を検出したが、遺構・遺物は確認されなかった。



図20 調査地位置図 1:5,000



図21 調査区全景 南から

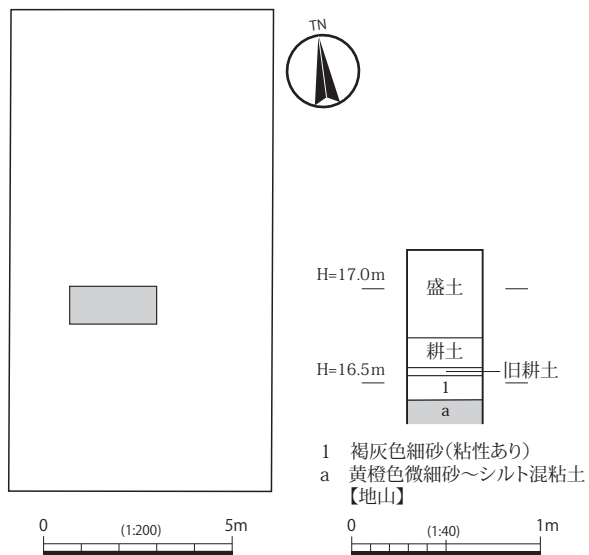


図22 調査区配置図・土層柱状図 1:200・40

(4) 三宅遺跡 (E3-3-40) 位置図番号: 4

調査地は低位段丘上に所在し、三宅遺跡の南部に位置する。対象地に1カ所の調査区を設定し、GL-1.65mまで掘削した。

標高約15.5mで地山を検出したが、遺構・遺物は確認されなかった。



図23 調査地位置図 1:5,000



図24 調査区全景 東から

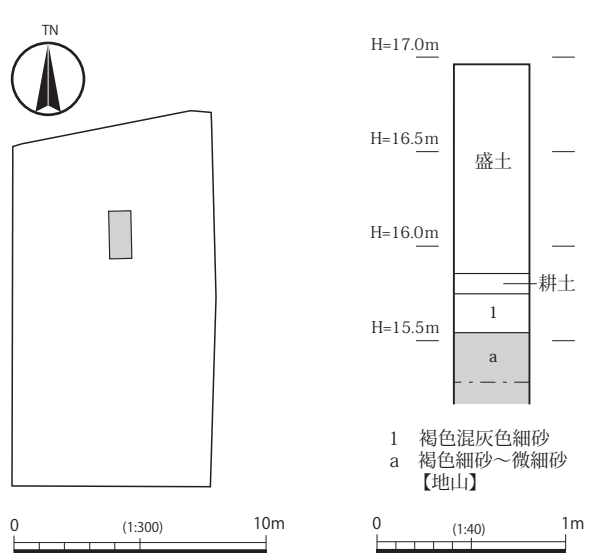


図25 調査区配置図・土層柱状図 1:300・40

(5) 阿保遺跡 (E5-2-63) 位置図番号: 5

調査地は中位段丘上に所在し、阿保遺跡の南東部に位置する。対象地に1カ所の調査区を設定し、GL - 0.65mまで掘削した。

標高約26mで地山を検出したが、遺構・遺物は確認されなかった。

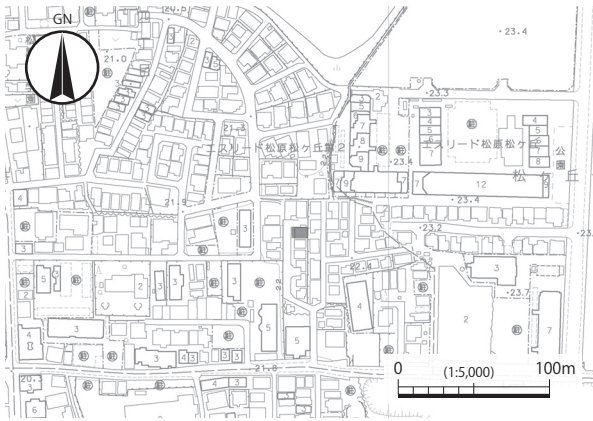


図26 調査地位置図 1:5,000

(6) 三宅遺跡 (E3-3-41) 位置図番号: 6

調査地は低位段丘上に所在し、三宅遺跡の南部に位置する。対象地に1カ所の調査区を設定し、GL - 1.4mまで掘削した。

旧耕土より下層は灰色細砂～微細砂及び同色粘土であった。地山、遺構・遺物は確認されなかった。



図29 調査地位置図 1:5,000



図27 調査区全景 東から



図30 調査区全景 東から

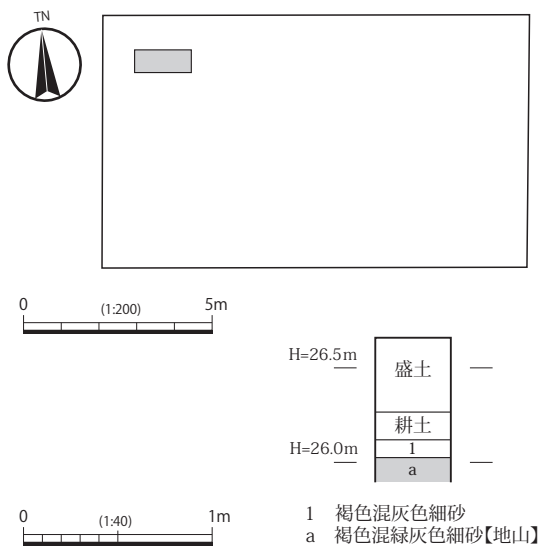


図28 調査区配置図・土層柱状図 1:200・40

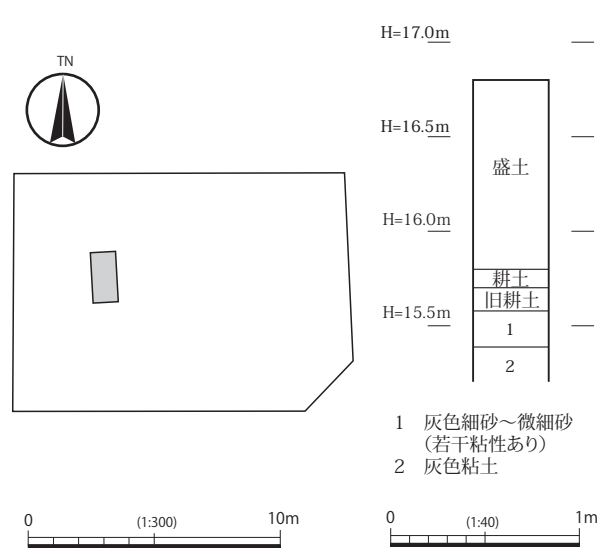


図31 調査区配置図・土層柱状図 1:300・40

(7) 上田町遺跡 (E5-4-99) 位置図番号: 7

調査地は開析谷を利用した寺池の西に所在し、上田町遺跡の北東部に位置する。対象地に1ヵ所の調査区を設定し、GL-1.5mまで掘削した。地山は確認されなかったため、本調査地は谷状地形内に位置するとみられる。遺構・遺物は確認されなかった。



図32 調査地位置図 1:5,000

(8) 高見の里遺跡 (D5-4-73) 位置図番号: 8

調査地は沖積段丘上に所在し、高見の里遺跡の北東部に位置する。対象地に1ヵ所の調査区を設定し、GL-1.1mまで掘削した。

耕土より下層は砂層の堆積が主体であった。地山は検出できず、遺構・遺物も確認されなかった。

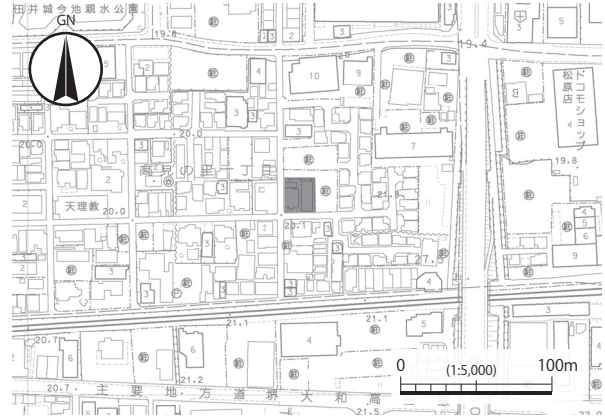


図35 調査地位置図 1:5,000



図33 調査区全景 南から



図36 調査区全景 西から

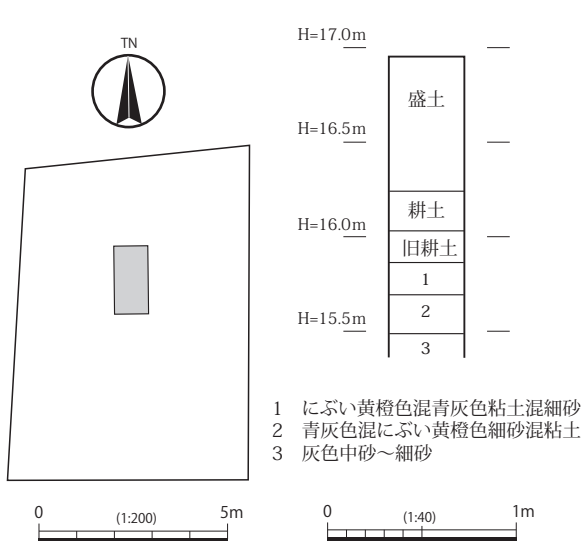


図34 調査区配置図・土層柱状図 1:200・40

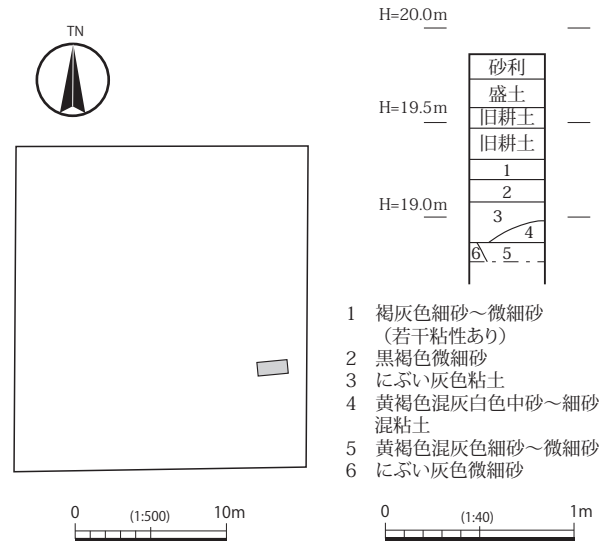


図37 調査区配置図・土層柱状図 1:500・40

3. 岡遺跡 E7-3-54 本発掘調査結果

(1) 発掘調査の概要

本章では、令和4年度(2022)1月に実施した岡遺跡(調査番号:E7-3-54)の本発掘調査結果を報告する。なお、調査期間等については、表3を参照されたい。

周辺の調査については、調査地の南側(図38:E7-3-45・48・52・53)で、奈良時代～平安時代中期頃を中心とする集落の存在が判明している(松原市教育委員会2023)。さらに南側では、大阪府教育委員会が大阪府営住宅建替え工事に伴って行った本発掘調査がある。この調査では、平安時代末期の大型建物のほか、松原市域では貴重な発見となった鎌倉時代～室町時代前期の鋳造関連遺構・遺物などがみつまっている(大阪府教育委員会1993)。

(2) 基本層序

調査地は、昭和17年(1942)の航空写真では耕作地であるが、その後公園を経て、宅地となった。

基本層序は図39のとおりで、耕土、床土、間層をはさみ、地山に達する。遺構面は、地山上面の1面のみである。なお、遺構面の標高は、約30.6～30.7mで、南側の調査区とほぼ同じである。

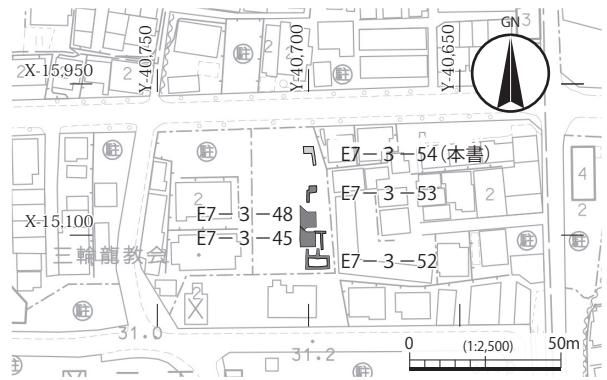


図38 松原市教育委員会発掘調査区配置図 1:2,500

(3) 検出遺構・出土遺物

検出遺構は、柱穴2基、土坑1基で、出土遺物はコンテナ1箱の土師器・須恵器が出土した。以下、検出遺構について述べる(図39)。

- 1 柱穴 直径約0.2m、深さ0.06mをはかる。
- 2 柱穴 直径約0.2～0.25m、深さ0.1mをはかる。
- 3 土坑 南北2.25m、東西0.3m以上、深さ0.3mをはかる。土師器の細片が出土した。

遺物は、3土坑以外では重機掘削中に土師器、須恵器が出土したが、全て細片のため図化できなかった。詳細な年代は不明だが、周辺調査の出土遺物から、上記の遺構は奈良時代～平安時代中期頃と推定される。

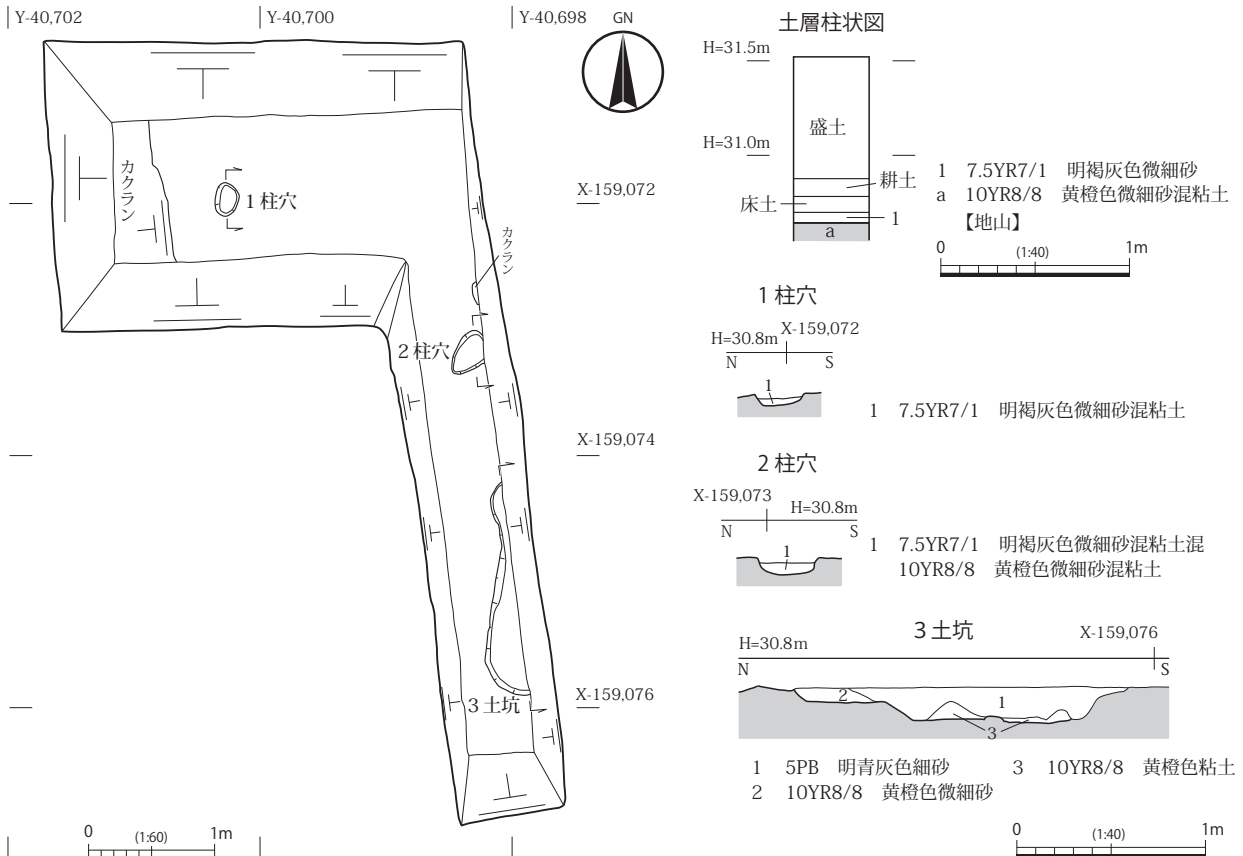


図39 遺構平面図・遺構断面図・土層柱状図 1:60・40

(4)まとめ

本調査では、小規模な調査面積ではあったが、柱穴や土坑などの集落遺構を検出した。本調査地は、南側の調査結果と比較して遺構密度が低いいため、この付近に所在した奈良時代～平安時代中期頃の集落の縁辺部である可能性が考えられる。

引用・参考文献

大阪府教育委員会 1993『岡2丁目所在遺跡発掘調査概要報告書』

松原市教育委員会 2023『令和4年度国庫補助事業松原市内遺跡発掘調査報告書』



図40 調査区全景 北から



図41 東壁 西から

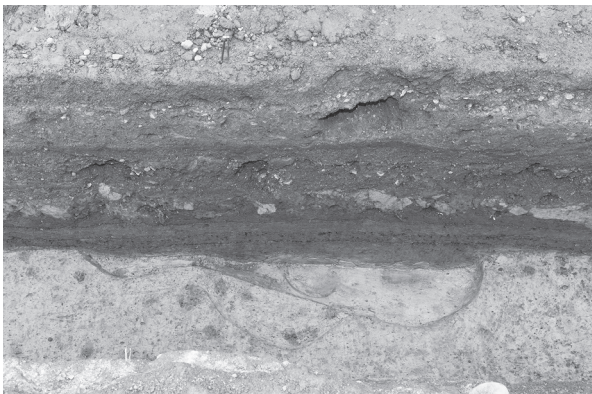


図42 3土坑 西から

4. 丹南藩初代藩主高木正次墓所の調査

(1) 調査の概要

松原市丹南3丁目に所在する融通念佛宗の来迎寺(図43)は、江戸時代には中本山で、同宗中興の第七世法明が河内国に組織した融通念仏信仰集団である六別時の一つ十箇郷別時と呼ばれ、14世紀代頃に成立していたとされる。丹南藩初代藩主高木正次より丹南村に寺地を与えられ、承応2年(1653)に本堂が完成し、18世紀前半～中頃には、丹南藩藩主の菩提寺として確立した。藩主高木氏の歴代位牌を祀り、墓地には初代藩主正次と11代藩主正明の五輪塔、12代藩主正坦の娘の櫛形墓碑が所在する。

松原市教育委員会では、平成29・30年度(2017・2018)に、来迎寺所蔵文化財の総合調査を実施した。その中で墓地等の墓石も調査対象とし、丹南藩藩主墓についても銘文の翻刻や高さ・幅などの法量計測を実施した(元興寺文化財研究所編 2020 ※以下、元文研と表記する)。

本調査は、現状の把握と今後の適切な保存を図る目的で、同じ墳丘上に所在する初代藩主高木正次と12代藩主正坦娘の墓の3次元測量を行い、平面図・立面図・断面図を作成したものである。

(2) 丹南藩について

丹南藩は、徳川家康の家臣であった高木正次が元和9年(1623)に加増され、それまでの所領と合わせて合計一万石を支配することとなり、河内国丹南郡丹南(現在の松原市丹南)に陣屋を構えて立藩した。立藩以降は、一度の国替えもなく、明治4年(1871)まで約250年にわたって、高木氏が代々治めた。

なお、6代正陳が藩主である元禄年間(1688～1704)の頃に定府大名となった。

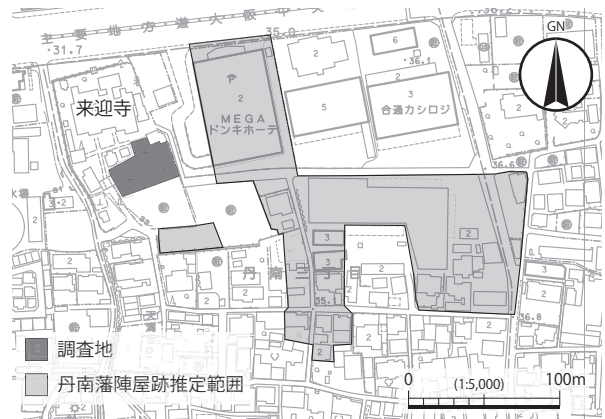


図43 調査地・丹南藩陣屋跡推定範囲位置図 1:5,000

(3) 初代藩主高木正次の墓

初代藩主高木正次墓は墳丘上に切石基壇を設け、別石五輪塔を配置する(図46・47)。石材は全て花崗岩である。墳丘は南北約6m、東西約5m、高さ約1.6mで、当初の形状は不明だが、ブロック塀で方形に土留めされている。ブロック塀は昭和47年(1972)の写真にはなく(池下 1972)、それ以降に設けられた。

五輪塔は、基壇(埋没部除く)から空輪まで総高約2.06mをはかる。空輪は頂部がやや突出し、側面は若干丸みをおびる。火輪の軒口は大きく反る。水輪の側面は直線的でふくらみはない。地輪は高さより幅の法量が大きい長方形で、東面に被供養者名等の銘文がある。反花座は隅に主弁の中央がくる弁央型である。空風輪から地輪の各組み合わせにはずれが生じている。地輪の銘文や手水の方角から、東が正面である。なお、東には丹南藩陣屋が所在していた。

この他、東西南北の各部材に梵字が刻まれるが、空風輪と火輪は、本来の方角のものではない。資料がなく、この状態となった時期は不明である。

次に、墓の建立年代についてだが、正次は寛永7年(1630)大坂定番在任中に死去した。史料としては、元文5年(1740)「丹南村明細帳」(『松原市史第三巻』)に、来迎寺境内に御殿様御墓所と記載があり、同元文5年「元朝義式旦家参詣 附関東江之年頭状之扣并講中廻状之扣・年中法要之次第并差定」(元文研編 2021)では、御墓所の西塀が崩れたため、来迎寺が丹南藩に修復を依頼している。よって、墓は寛永7年～元文5年の間に建立されたことがわかる。

なお、現在、初代藩主墓の周囲には墓が所在するが、文化3年(1806)～文政11年(1828)の間に描かれた来迎寺境内図(図45)では、中央に塔(五輪塔)があり、門を有する塀で囲まれているため、当初は独立した空間であったとみられる。



図44 丹南藩初代藩主高木正次墓所全景 東から

(4) 12代藩主高木正坦娘の墓

初代藩主墓の北隣には、12代藩主高木正坦娘の櫛形墓碑がある(図46・47)。基壇を設け、墓碑、台石を配置する。石材は全て砂岩である。基壇(埋没部除く)から墓碑の頂部まで総高約0.76mをはかる。墓碑正面には高木氏の家紋である丸に違い鷹の羽紋の陽刻と戒名が確認できる。銘文より慶応4年(1868)6月に死去したことがわかる。

慶応4年4月に、諸侯家族・家来等定府の者は国元に戻るように指示した太政官布告により、定府大名であった高木氏も国元に戻ったと考えられる。来迎寺に墓が建立されたのは、国元で亡くなったためであろう。なお、来迎寺には位牌も祀られている(元文研編 2020)。

引用・参考文献

池下裕造 1972『松原市の史蹟・丹南編』松原市教育委員会・松原市郷土史研究会

香川県立ミュージアム 2015『高松藩主松平家墓所調査報告書』(公財)元興寺文化財研究所編 2020『松原市内所在の文化財総合調査1—丹南・来迎寺—』松原市教育委員会

(公財)元興寺文化財研究所編 2021『松原市内所在の文化財総合調査2—丹南・来迎寺—』松原市教育委員会

岸和田市教育委員会 2013～2015『平成24～26年度 発掘調査概要』

高知県文化生活部文化推進課 2015『土佐藩主山内家墓所 調査報告書』

酒井雅規 2021「来迎寺と丹南藩」『松原市内所在の文化財総合調査2—丹南・来迎寺—』松原市教育委員会

(財)土佐山内家宝資料館 2012『土佐藩主山内家墓所 調査報告書』

藤澤典彦・狭川真一 2017『石塔調べのコツとツボ』高志書院

松原市史編さん委員会 1978『松原市史第三巻』松原市役所

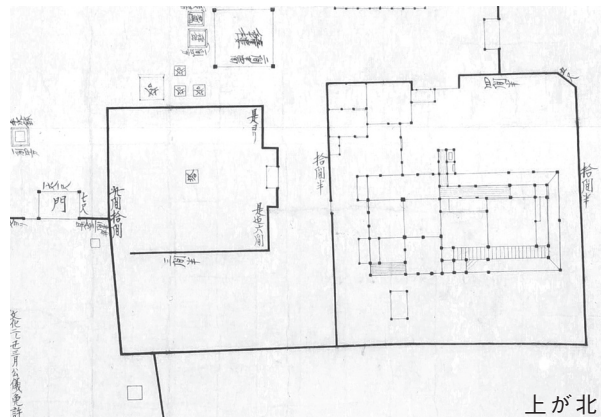


図45 来迎寺境内図墓地部分 (元文研編 2020より引用)



| Y-40.810

| Y-40.808

| Y-40.806

| Y-40.804

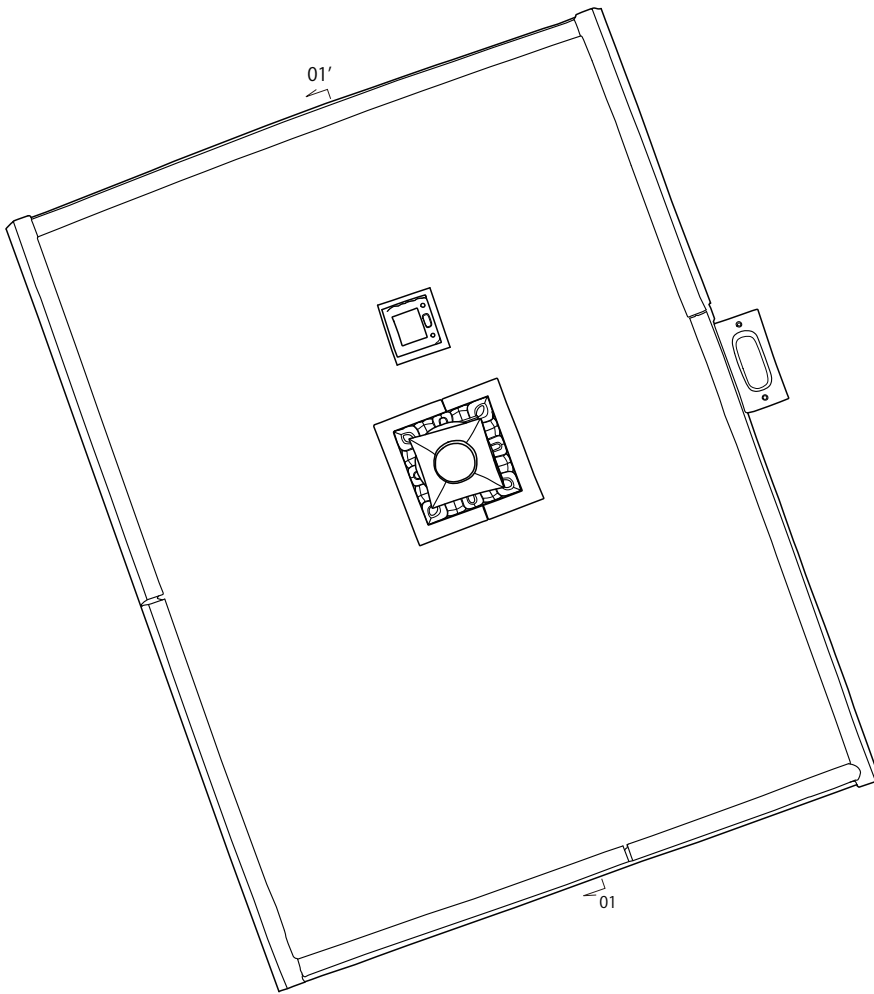
X-159,764

X-159,766

X-159,768

X-159,770

X-159,772



H=38.0 m
SE

H=37.5 m

H=37.0 m

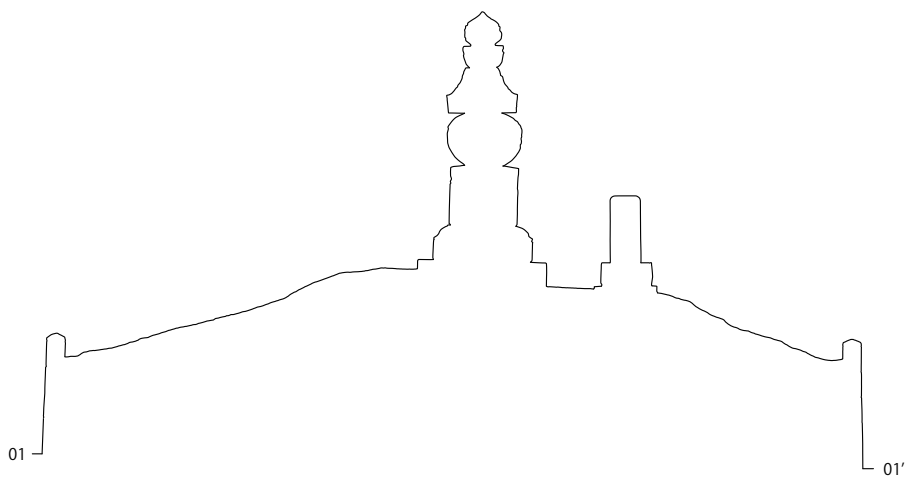
H=36.5 m

H=36.0 m

H=35.5 m

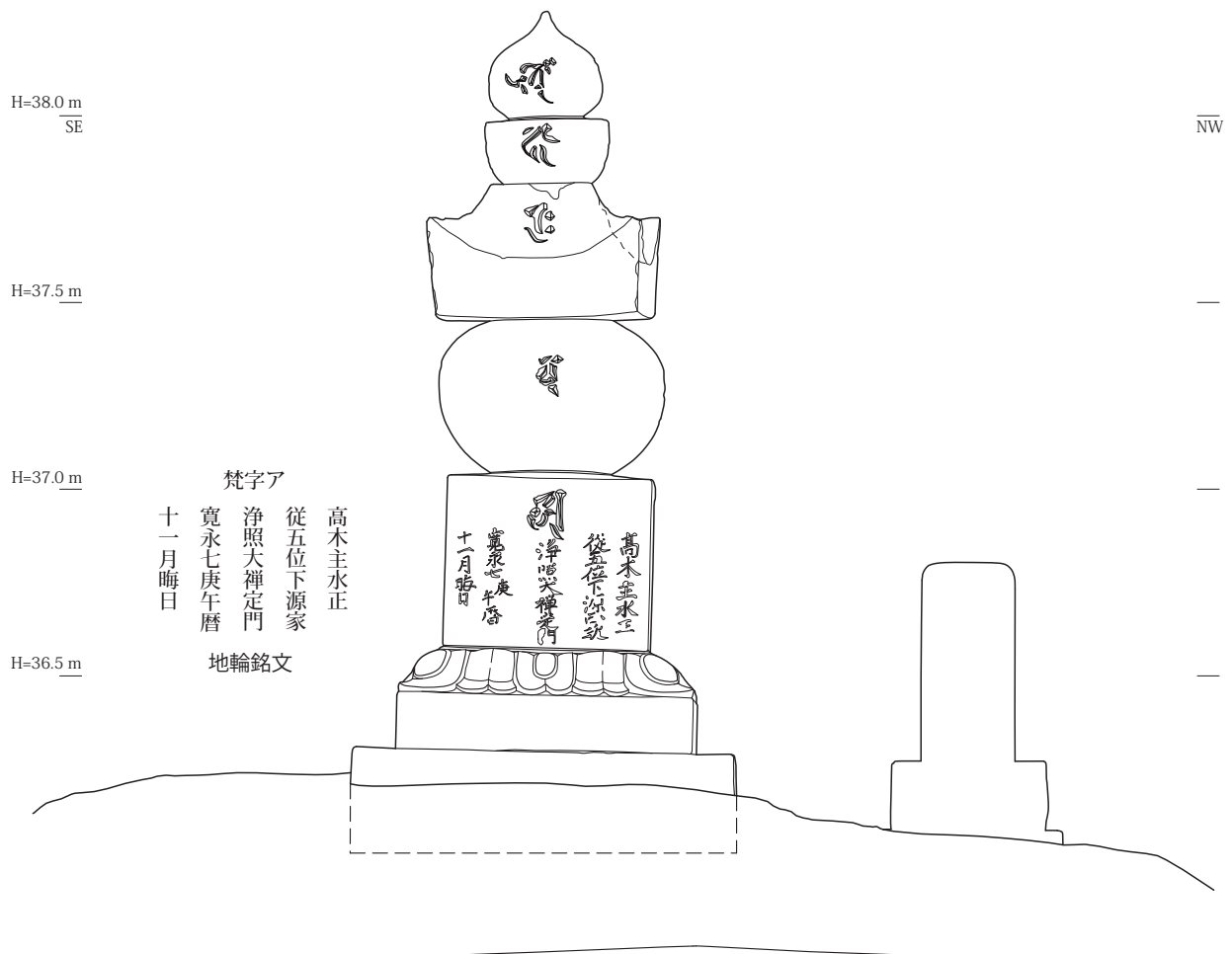
H=35.0 m

NW



0 (1:60) 1m

图46 丹南藩初代藩主高木正次墓所 平面図(上)・断面図(下) 1:60



丹南藩初代藩主高木正次五輪塔 正面（東）立面図

以下ブロック塀



家紋
(丸に違い鷹の羽紋)

高木主水正正坦
母者家女次女

智明院殿光遊照雲童女

慶應四戊辰年
六月十五日

各面銘文

12代藩主高木正坦娘碁形墓碑 立面図



図47 丹南藩初代藩主高木正次五輪塔 正面（東）立面図(上)・12代藩主高木正坦娘碁形墓碑 立面図(下) 1:20

報告書抄録

ふりがな	れいわ5ねんどこっほじょじぎょうまつばらしないいせき							
書名	令和5年度国庫補助事業松原市内遺跡							
副書名	個人住宅建築工事等に伴う試掘・確認調査、岡遺跡E7-3-54発掘調査、丹南藩初代藩主高木正次墓所調査報告書							
シリーズ名	松原市文化財報告							
シリーズ番号	第17冊							
編著者名	檜木 規秀							
編集機関	松原市教育委員会							
所在地	〒580-8501 大阪府松原市阿保1丁目1番1号 TEL 072-334-1550 FAX 072-332-8550							
発行年月日	令和6年(2024)3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	発掘期間	調査面積	発掘原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
はんいがい 範囲外	まつばらしべつしよ 松原市別所3丁目	27217		34°35'04	135°34'01	2023.03.07~ 2023.03.09	107.14㎡	公共施設整備
わかばやしせいせき 若林遺跡・ はんいがい 範囲外	まつばらしわかばやし 松原市若林1・2丁目	27217	47	西 34°35'23 東 34°35'18	西 135°34'53 東 135°35'01	2023.06.13~ 2023.06.19	72.25㎡	市道整備 公共施設整備
みやけいせき 三宅遺跡	まつばらしみやけなか 松原市三宅中4丁目	27217	23	34°35'30	135°33'22	2023.08.07	2.3㎡	個人住宅
みやけいせき 三宅遺跡	まつばらしみやけなか 松原市三宅中2丁目	27217	23	34°35'08	135°33'14	2023.09.11	1.71㎡	個人住宅
あおいせき 阿保遺跡	まつばらしあお 松原市阿保4丁目	27217	29	34°34'40	135°33'28	2023.09.25	0.90㎡	個人住宅
みやけいせき 三宅遺跡	まつばらしみやけなか 松原市三宅中2丁目	27217	23	34°35'07	135°33'14	2023.10.06	2.0㎡	個人住宅
うえだちやういせき 上田町遺跡	まつばらしうえだ 松原市上田2丁目	27217	30	34°34'37	135°33'29	2023.12.11	1.62㎡	個人住宅
たかみのさとせいせき 高見の里遺跡	まつばらしたかみのさと 松原市高見の里1丁目	27217	31	34°34'34	135°32'59	2023.12.11	1.80㎡	個人住宅
おかいせき 岡遺跡	まつばらしおか 松原市岡2丁目	27217	38	34°33'55	135°33'23	2023.01.27~ 2023.01.31	11.21㎡	個人住宅
たんなんいせき 丹南遺跡 (丹南藩初代藩主 高木正次墓所)	まつばらしたんなん 松原市丹南3丁目	27217	41	34°33'32	135°33'19	2023.07.31~ 2023.08.03 2023.08.23~ 2023.08.24		範囲確認 (測量)
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
範囲外			なし	なし				
若林遺跡・ 範囲外	集落	弥生時代~ 古墳時代	柱穴、溝、土坑	弥生土器、土師器				
三宅遺跡	集落		なし	なし				
三宅遺跡	集落		なし	なし				
阿保遺跡	集落		なし	なし				
三宅遺跡	集落		なし	なし				
上田町遺跡	集落		なし	なし				
高見の里遺跡	集落		なし	なし				
岡遺跡	集落	奈良時代~ 平安時代	柱穴2、土坑1	土師器、須恵器		奈良~平安時代の集落を確認。		
丹南遺跡 (丹南藩初代藩主 高木正次墓所)	墓 (大名墓)	近世	なし	なし		丹南藩初代藩主高木正次墓所の3次元測量を実施。		
要約	個人住宅建築工事等に伴う試掘・確認調査では、今後の埋蔵文化財保護のための基礎資料を得ることができた。 岡遺跡E7-3-54発掘調査では、奈良~平安時代の集落を確認した。 丹南藩初代藩主高木正次墓所では、現状の把握と今後の適切な保存のための基礎図面を作成することができた。							

松原市文化財報告第17冊

令和5年度国庫補助事業松原市内遺跡

個人住宅建築工事等に伴う試掘・確認調査、
岡遺跡E7-3-54発掘調査、
丹南藩初代藩主高木正次墓所調査報告書

【編集発行】松原市教育委員会

【発行日】2024年3月31日

【印刷】岡村印刷工業株式会社